デバイス管理に関する相談

相談２：末梢静脈カテーテルのルート交換時期について

（相談内容）

末梢静脈カテーテルの交換時期はどのくらいが適切ですか。

（回答）

血管内留置カテーテル関連感染予防のためのCDCガイドラインでは、「成人の場合、感染と静脈炎のリスクを減らすために末梢カテーテルを72～96時間（３日～４日）よりも頻回に交換する必要はない。」とされています。また「小児の場合は、臨床的に適応となる場合にのみ交換をすること」とされており、定期交換については謳われていません。

つまり、「72～96時間留置した後に定期交換を実施するのか」「必要時交換を実施するのか」については各施設の判断に委ねられています。ガイドラインに謳われていないから、定期交換は廃止してもよいと安易に考えるのではなくて、どちらの交換時期を採用するにしても、日々の末梢静脈カテーテル挿入による合併症の予防や異常を早期発見できる体制を整えることが一番重要です。日々の管理としては、以下のようなことがあげられます。

□挿入部が観察しやすいフィルム剤を使用する

□挿入部の固定に使用しているフィルム剤やテープに日付を記入する

□血管外漏出・静脈炎徴候をつねに観察をする

挿入部の発赤・腫脹・熱感・疼痛・排膿、薬液漏れなど

□挿入部に異常がある場合には速やかに抜去する　　など

基本的に、末梢静脈カテーテル留置そのものが感染のリスクとなりますので、安易に留置するのではなく、必要性について検討することも大切です。また、長期間（１日以上）使用しないカテーテルは不必要に留置せず、不要になったら速やかに抜去することが望ましいです。

参考文献：

１）ＣＤＣ（米国疾病対策センター），血管内カテーテル由来感染の予防のためのガイドライン2011.

２）インフェクションコントロール編集室,感染対策の必須テクニック117,メディカ出版,2010年秋季増刊.

３）大久保憲，はやわかりレヴュー！感染対策に必要なガイドラインこれだけは！，メディカ出版，2015.

４）森兼啓太，“今のすべてがここにある!”感染対策ＩＣ ＬＡＢ，メディカ出版，2016.

５）鍋谷佳子・矢野邦夫,感染対策素朴なギモン解決メソッドＱ＆Ａ,メディカ出版,2016.